

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472600776		
法人名	特定非営利活動法人 養老会		
事業所名	グループホーム「養老の泉」		
所在地	大分県豊後大野市大野町大原1186番地1		
自己評価作成日	平成29年11月30日	評価結果市町村受理日	平成30年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_20_16_022_kani=true&JigvosvoCd=4472600776-00&PrefCd=44&VersionCd=022_
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 テュリス古国府壱番館1F
訪問調査日	平成29年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人がその人らしく生活出来るように、職員は常にさりげなく優しく接するように心掛けている。また、介護度の高い利用者が多い為、個別に対応し「安心、安全」で生活出来るように職員は接している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に囲まれ、平屋建ての静かな環境にあり、ウッドデッキには利用者が作った干し柿がのれんの様に吊られ、季節を感じます。ホール中央の円卓では、利用者と職員の会話が弾み、穏やかな雰囲気と落ち着いた生活が提供されています。家庭的な雰囲気を大切に支援する中で、利用者それぞれの個性を生かし、個々の思いを汲み取り意向に沿った支援が行われています。高齢化や重度化が進む中、全職員が利用者の目線にたち生活を見つめ、気づきやアイデアを職員同士で話し合える関係は、利用者に対する意識の高さが伺えます。運営推進会議を通して、地域相互連携への環境づくりに努めるとともに、運営推進会議のテーマに必要な資料を市の担当者が提供しており、行政との協力関係も築いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	”現状に合った理念の作り変え”の検討もしたが、変更の必要がないと判断したため、事業所理念はここ数年変えていない。現在の理念を職員で唱和するようしており、異動してきた職員も共有できている。また、実践の中でも、理念を具体化したケアが行えているか職員同士の話し合いが活発である。	事業所が目指す介護のあり方を明示した理念及び行動目標を提示し、職員は利用者一人ひとりの個性や生活習慣を大切に利用者の立場を尊重、笑顔や優しい言葉かけで接しています。会議で議題にあげ理念を理解するとともに、共有実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎月実施していた”喫茶の日”の参加は、高齢化や地域の皆さんの諸事情により年々参加が難しくなってきたが、季節ごとの行事や避難訓練には地域の方々の参加がある。また、スーパーに買い物に行ったり、保育園児との交流、ピアノ演奏等があったりと地域の人々との交流を持つ努力をしている。	地域の一員として、自治会に加入し地域との情報交換や避難訓練に地域の方の参加、交通安全の協力、専門医師による「認知症及び健康教室」の開催等地域の方との関係を深めています。地域密着型サービスの役割を考慮し、地域に信頼されるよう努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケア研究会によるキャンペーン活動に参加して活動している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容を職員が共有している状態にはまだ至っていない。	2ヶ月毎に開催している運営推進会議では活動報告を行う他、毎回テーマを決めて意見交換を行っています。委員からは地域や行政の情報が提供され協力的な会議となり事業所での活動に取り入れられています。	運営推進会議に出席できない家族にも議事録を送付し事業所の現状を発信すること、職員にはミーティング等で報告し、運営推進会議に対する意識向上を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず参加して頂けるのでその際に、また、何らかの課題が生じた際にも相談に乗っていただいている。	市担当者とは、電話や直接窓口に出向いて意見・相談・アドバイスを頂いています。運営推進会議の出席もあり、会議では毎回テーマを決めて討論をしています。市の担当者や包括職員からテーマの資料を提供してもらう等協力関係及び連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年法人全体の勉強会で、身体拘束について学習している。しかし、一人で外に出ようとする方がいる時、安易にサッシの二重ロックをかけている状態もあり、現場での取り組み方法の検討や意識改革のための話し合いを重ねていくことが必要と思われる。転倒等のリスクのある方の場合、ご家族にも現状とケアの実践を報告させていただき、理解頂き、ご家族とともに見守るようにしている。	身体拘束及び虐待において年1回研修を行い、新人にはOJTにて理解を深めています。他事業所で起こった事例を検討する中で、全職員は身体拘束廃止、虐待防止に真摯に取り組んでいます。管理者は職員の話をよく聞くことでストレス軽減に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年勉強会や都度都度の学習を行っている。他事業所等で起こった虐待を取り上げ、無意識の虐待もあることを認識し、皮膚の変化の早期発見と原因追及と再発防止に取り組んだり、心理的虐待等に繋がりがかねないような日常の行為を反省、自覚するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度、法人勉強会で学習している。日常生活自立支援事業の利用者はいるが、新たな対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書等をもとに、事故のリスクについての説明や、終末期についての話、料金について等できるだけわかりやすく説明するようにしている。入所時に限らず、必要時は必ず個別にもしくは家族会等を利用し相談を持つようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見は、直接職員に伝えてもらっている。苦情等の受け付けは、契約時に窓口の説明をしている。	運営推進会議、家族会、年2回の役員会、行事(花見、敬老会、忘年会等)の招待で家族の意見を聞く機会を多く設けています。家族から、利用者が「自分の名前をいつまでも書けるように」との要望があり、サービス計画の中にリハビリを取り入れケアに反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の会議が月に一度あることや、年に2回代表者との面接があったりと、意見を出せる環境を取っている。	管理者は会議や毎日のミーティングで職員の意見や提案を聞き取り、必要時は個別面談も行い話しやすい環境づくりに努めています。また、問題点は職員と連携して、解決に取り組み業務やサービスの向上に繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場に行き、日々の状況を知り職員の努力や業務の悩みを把握している。また、対象となる職員には資格取得研修にも参加してもらい、向上心をもって働けるように働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等に参加できるように、機会があれば参加者を募り、参加している。異動時には、必要な場合、数日だけだがOJTができる体制を取っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分県小規模介護ネットワークや認知症ケア研究会等に参加して、研修があるとき参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能であれば、入所前に自宅や施設にいる本人に面会に行き直接本人と顔を合わせ会話を持ち、気持ちを向うようにしている。情報提供書を事前に確認し、入所に至る経緯等本人の置かれている環境を理解していくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入所時にご家族の思いや入所に至るまでの経緯などを聞くようにしている。今後、何かあれば、話し合いを持ちながら解決していく旨も伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学に来所した際にご家族と面談し、入所に結び付くか判断している。入所が難しい場合は、その他の機関に繋げるようにしている。入所が決定しサービスが始まった段階では、ホームに慣れていただくことを目標に、コミュニケーションを積極的にとるように心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の話をしてもらったり、炊事等をしていただいたり、共に暮らしてく関係を築くようにしている。「自分は年寄りなので何もできない。」と言われる方もいるが、できることを見つけて声かけしてできることをしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、あくまでも本人と家族の支援者であるので、本人の体調の変化や状況の変化が見られれば、ご家族にお知らせし理解してもらい、支援の方法もお伝えし理解してもらうようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の置かれた立場に合わせて、可能な方には、自宅に訪問してみたり、ご家族やご近所の方との電話をゆっくりして頂いたり、ご家族、兄弟の方とゆっくり過ごしてもらおう工夫をするなどの支援に努めている。	法人のデイサービスに遊びに行き友人と話したり、出身地域のボランティアの方が時々面会に来たりと馴染みの関係継続の支援を行っています。新規利用者には、早く馴染んでもらう為に、自宅近辺にドライブしたり、声かけを多くし支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自由に交流したり、お世話をできる環境を作るように心がけている。妄想で大声で怒っているかたに諭すように声をかけてくれる方や、超高齢者の利用者をいたわってくれる方など。相手の部屋に行き、ベッドに腰かけ話をしている方たちもいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替え等の事例がないが、もしあった場合でも移り住む先の関係者に本人の日常の様子がかかるような情報を提供する体制がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉だけで判断せずに、その奥に秘められた気持ちは何なのか、本人が求めているものは何なのか、表情やこれまでの経緯をもとに職員間で話し合い判断をしていくようにしている。言葉の少ない方にも気持ちを確認するように声掛けをしている。	利用開始時の聞き取りや、毎日の生活を通して思いや希望の把握に努めています。職員はミーティングや申し送りノート等で情報の共有を図り、家族とも相談しながら、利用者本位の支援を目指しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や過去の暮らしぶりは、その人にとっては人生そのもので、支援者の私たちにとっても大切な情報ととらえているため、フェースシートに書き込まれるようにしており、職員が共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日によって心身の状態に変化のある方もいるが、職員全員が本人の状況を理解していき、できない時には無理をせず、できる日にできることを取り組んでもらえるように声をかけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在は、利用者の状態に変化があった時のみの変更となっている。また、ADLの支援に関する介護計画になりがちだが、利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成しなければならないと考えている。	介護計画(サービス②)は月毎に集計して、3ヶ月毎のモニタリングと実施記録、6ヶ月毎の見直しに繋げています。利用者の重度化等により、職員の観察や気づきが反映されており、現状に即した介護計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実践の評価を日常的に記録できるようになったが、介護計画の見直しに生かすことは十分にできていない。職員は、勤務の際にはそれまでの様子を各自確認するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員単位でできることは行っているが、事業所をベースにした多機能化はまだほぼできていない。既存のサービス内では比較的柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出身校区のボランティアの方の訪問があったり、友人からの電話があったり、スーパーや購買者での買い物等地域資源との協働しているが、事業所からもっと積極的に取り組みを考えていくことが必要と考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。一か月に1～2回の往診があり、事業所との関係性も良好である。月の途中で体調不良な状態が起こった時でも、スムーズな連携が取れ適切な医療を受けていただいている。	かかりつけ医からの情報は管理者から家族に報告されています。薬が変わる際には看護師から職員へ連絡が行われています。利用者の体調の変化にいち早く気づく様、毎日の健康管理に留意しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置があり、日常の気づきや変化の報告、相談は日常的に行なっており、必要時は医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づ	入院時にはサマリー等で様子を知らせている。入院中は病院や家族と連絡を取り、本人の状態を把握するようにしている。退院時はサマリーをもらい、利用者にとって環境の急変ができるだけおこらないように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んで	重度化、終末期のそれぞれの段階に差し掛かるとき、ご家族、かかりつけ医と状態の共有と方針の確認を行っている。職員にも、申し送りノート等を利用して、情報の共有をしている。	看取りの経験を活かし、段階ごとに家族との話し合いを持ち、かかりつけ医と連携、職員間の情報の共有等を明確にしながら、終末期に向けた支援への取り組みが行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、救急救命法の勉強会を実施している。その他にも、実践の中で不安のある場面の対応法について、看護師が指導して学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、地域住民の方、消防団の方、消防署の方の協力のもと、夜間想定火災時の避難訓練は実施している。自動火災通報装置を導入しており、機器の取り扱いの勉強もしている。停電時等の対策について、体制を検討中である。	夜間想定火災訓練には、地域住民や消防団、消防署の協力が得られています。又、自動火災通報装置を導入し、火災訓練強化に取り組まれています。	自然災害時の安全対策や停電時の対策についての取り組みについては、今後の体制作りに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護やプライバシー保護等の勉強会は毎年実施している。馴れた関係性の中で、なななななな対応が見られることもあるため、職員同士で声掛けしたり、会議で注意を促したりしている。	毎年継続して権利擁護やプライバシー等の研修を行っています。馴染みの関係が長く続くなかで声かけや、言葉遣い等でなれ合いにならないよう、職員間でお互いに注意をしあえる体制作りに取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや介助を行う時、必ずわかりやすいように説明し、本人の同意を確認するようにしている。言葉の出にくい利用者さんには、表情や反応をみて判断している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、利用者のペースに合わせた対応を心がけている。例えば、起床時間を下げたり、買い物に出かけたり、外のベンチに座りゆっくり景色を眺めたり等希望に沿った支援をしている。日々の入浴やドライブなどの行事は職員の都合で決めていることもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、着替えの用意を一緒に選んだり、さりげなく髪の毛を整えたり、ひげ剃りを毎日したり、口の周りの汚れ等身だしなみがおろそかにならないように気を付けている。食べこぼしや、涎などで衣服が濡れた時も速やかにさりげなく更衣をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の際、声掛けして一緒に取り組んでいる。職員も一緒に同じ食事を摂っているが、必ず利用者と同じテーブルにつき、一緒に取るようにしている。	食材の安全性、食事摂取量の大切さを十分考慮し、食卓のレイアウトや職員が一緒に見守りながら、食が進む様に食材の話や嗜好についての話をしながら、楽しく召し上がれるよう雰囲気作りを行っている様子が伺えます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を確認し記録して一人一人の状況を把握している。中々摂れない方には、食事の形態を変えてみたり、時間帯をずらして見たり、ご家族に協力いただき好きなものを準備してもらったりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。本人ができるところは、声掛けをして実施してもらっている。個人の口腔状態によって、使用するブラシなどを変えて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄をすることを大切に考えているので、可能な限りトイレでの排泄支援を実施している。退院後、留置カテーテル挿入していた方も抜去し、トイレでの排泄が可能になった。羞恥心の配慮からも、失敗されたときの職員の態度にも気を付けている。	トイレでの排泄の際、立ち上がりやすいよう前方に跳ね上げ式の手すりを設置しています。排泄パターンを参考に声かけを行う事で、リハビリパンツから綿パンツへの変更の取り組みを行うなど、排泄の自立支援への積極的な取り組みが行われています。	排泄の自立支援への取り組みが積極的に行われており、リハビリパンツから綿パンツに変更になった利用者が数名おられます。今後の取り組みに期待が持たれます。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の状態が長くないように気を付けている。適度な運動を取り入れたり、食事にも食物繊維はあるが、便秘に傾く方が多く、下剤等の使用をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定をある程度職員が決めているが、一人一人の思いに合わせて、無理強いはしていない。拒む利用者には、入ってもいいと思えるような声掛けを工夫している。	入浴は午前中を予定していますが、状況により午後の入浴も臨機応変に対応しています。肌の保湿に気を配るとともにリラクゼーション効果やリフレッシュ効果を得る為に入浴剤を使用するなど、入浴を楽しめる支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調や前日の睡眠状態、活動による疲労感等に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人の服薬中の薬説明書をファイルして、職員がいつでも確認できるようにしている。誤認防止のために、様々な工夫を話合った。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の出来ること、趣味、嗜好品などを取り入れながら生活して頂いている。プランターに種を植えた後、自ら水やりや管理をされている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月、季節ごとのドライブを計画している。その他にも、本人の希望があれば、店に買い物のかけている。重度の方も、天気の良い日には短時間でも屋外へ散歩に出たりしている。	季節ごとの、ドライブやスーパーへの買い物と外出支援に取り組まれています。遠出の外出が困難な方には、夏に敷地内で開かれるイベントに参加して頂いたり、同じ法人内で行われるイベントに出かけるなど、戸外に外出する支援に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は個人で管理されていた方も、次第に困難になってきて事業所側で管理をしている方が多いが、できる方は買い物に出かけるとき、自分で支払ってもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から手紙や贈り物が届いたときなどは、電話をかけて話をしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度に気を配り、心地よい環境づくりを行っている。また、季節の飾りや花があり、季節感を取り入れている。	心地良く安全に過ごせる共有空間づくりに取り組まれています。居間ではボランティアの方やピアノの演奏会、保育園児との交流が持てるスペースがあり、ゆったりとくつろげる空間づくりを心がけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、ホールの移動等は自由であり、思い思いに過ごせるようにしている。気の合った利用者同士が過ごせるような席配置にし、ソファやいす等、一人で過ごせるスペースも設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具や写真、馴染みのものを置き、利用者の心地よさに配慮した空間ができるよう工夫している。	利用者の個性に合わせ、家族の写真を飾ったり、居室で過ごされる時間の多い方には、リラックスして自分らしく過ごせる部屋づくりを、職員のアイデアを生かし、安全安楽に過ごせる部屋づくりに取り組まれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレの手すりをつけていたり、歩行の際転倒しないように障害物を取り除くようにしている。その人の状態により、歩行器を使ってもらっている。トイレが確認できるよう、「トイレ」と書いて貼っていたり、部屋に表札を下げている。		